



時代の波に抗う観光

～伊根浦を事例とした観光のパラダイムシフトへの提言～

立命館政策科学部 アクアツーリズムプロジェクト 担当：野田先生

見村英俊 畑山麻美 村上奈々子 金井裕香 中谷優介 西尾比那 大橋朋実 村上公望 村上美紅 下浦奈々 山中榛華 佐々木彩乃 竹中碧 西凌平 松盛千歌

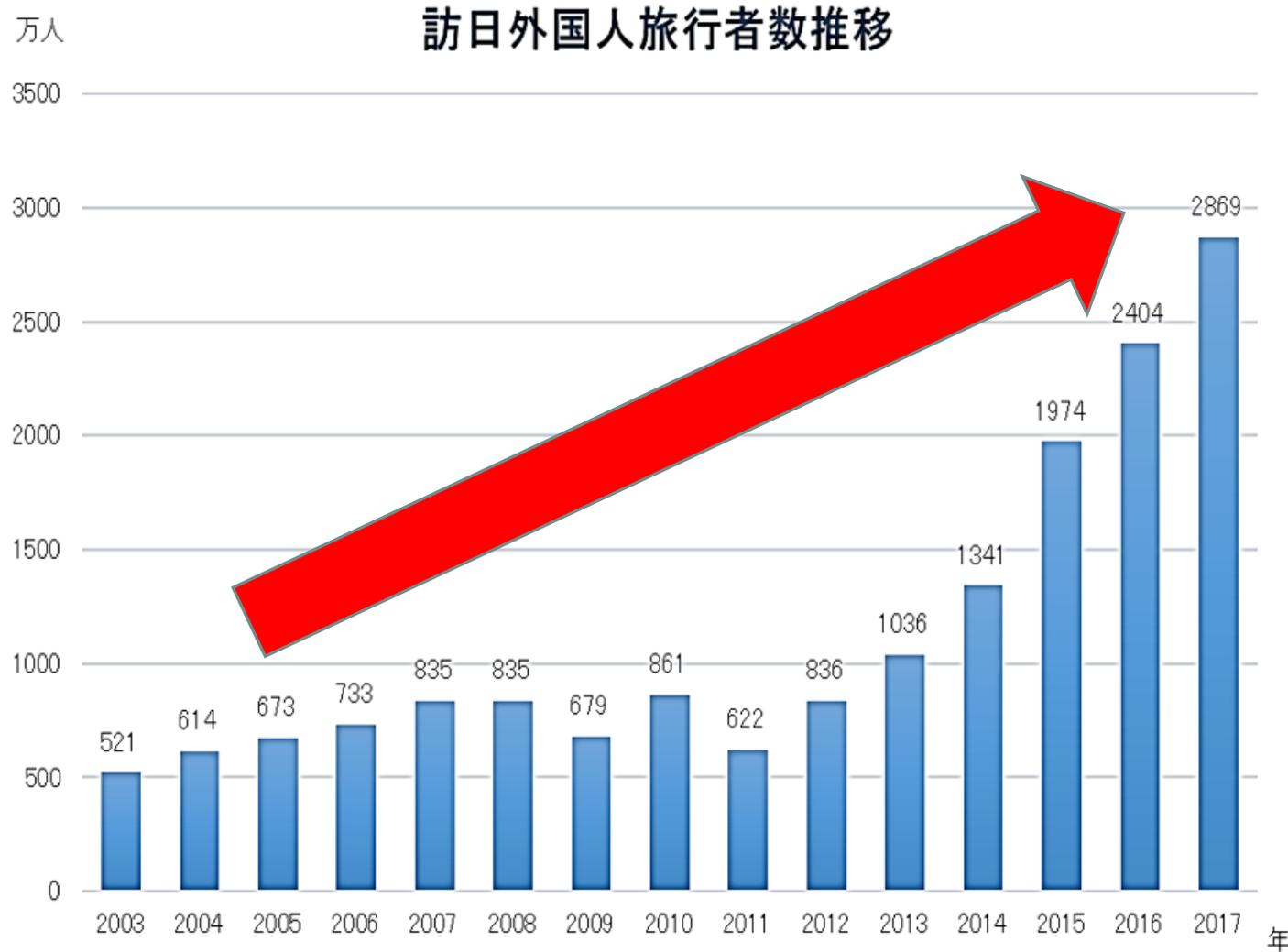
目次

- 1 研究背景
- 2 研究目的
- 3 伊根町について
- 4 ホテル建設案と代替案
- 5 結論



1. 研究背景

21世紀は“観光の世紀”といわれる



出典: 日本政府観光局(JNTO)をもとに作成

2020年までに

4000万人
目指す!!!

<日本の観光産業>

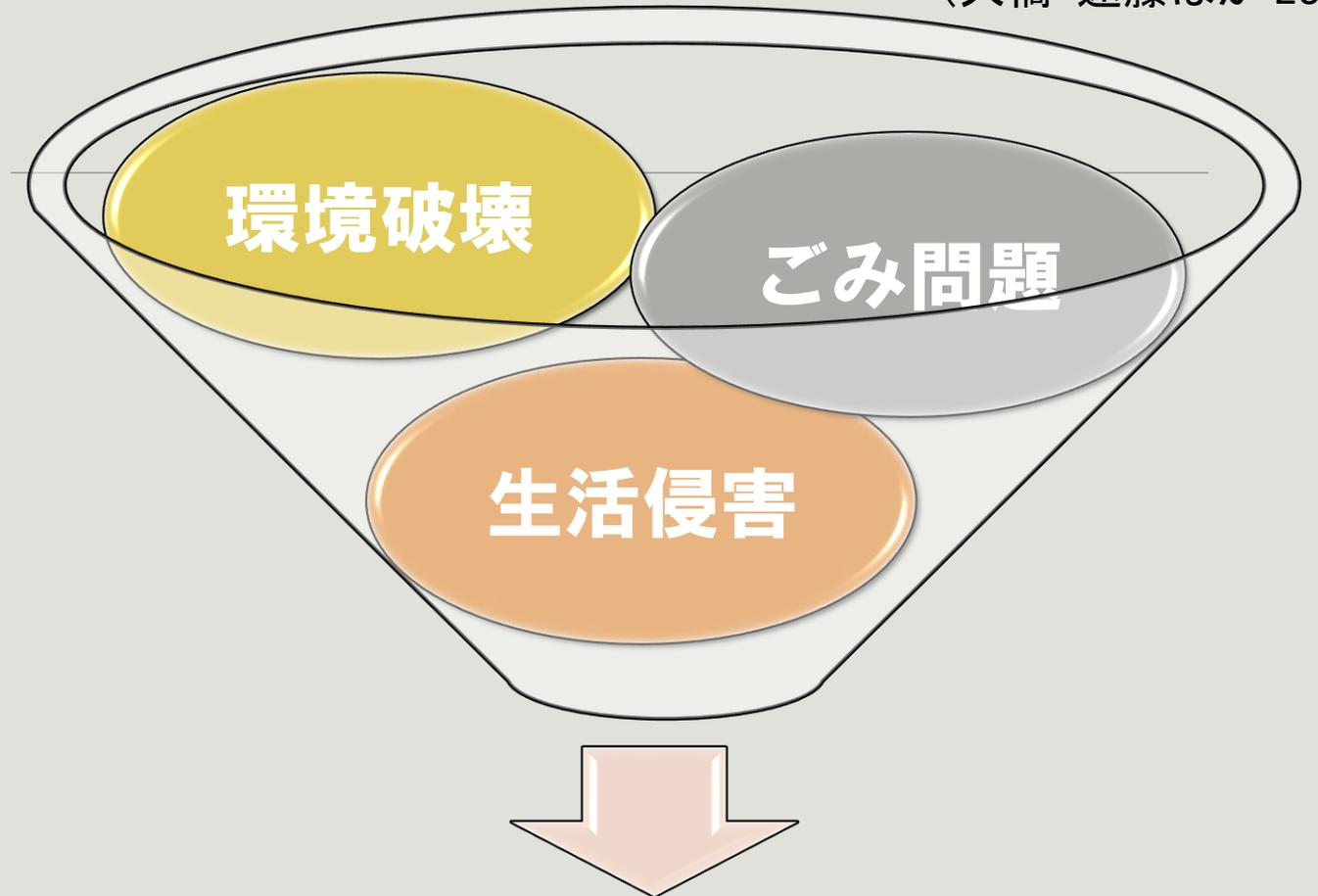
経済的利益を求めた

大衆的な観光

→ マスツーリズム

マスツーリズムによる弊害

(大橋・遠藤ほか 2014)

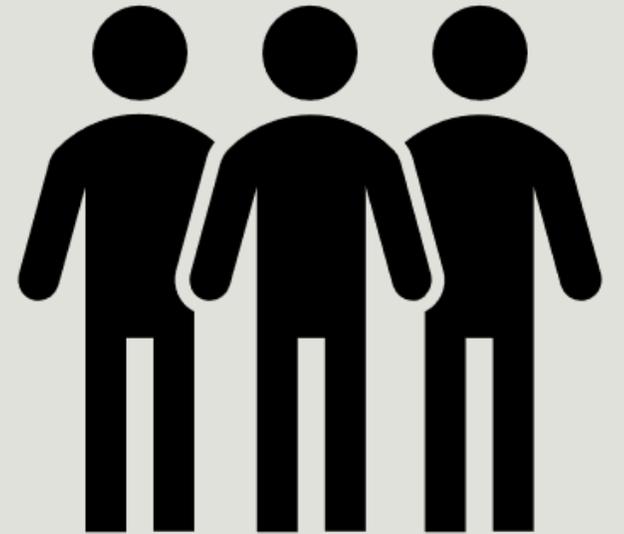


観光資源の劣化→持続できない観光

🔄 持続的な観光とは？

→ 住民の立場に立って観光のあり方を考える観光形態

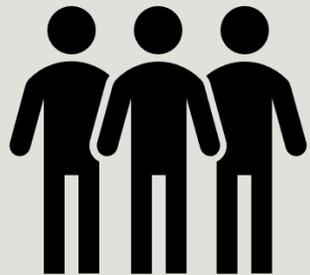
アクアツアーリズム



地域の水資源



環境保全



地域活性化

アクアツーリズム

地域社会に現存する地域の水資源を観光資源として活用することで環境保全と地域活性化をする新しいツーリズムのひとつである

アクアツーリズムはマスツーリズム的(金銭主義的)な志向を持っていないオルタナティブな観光実践

(野田 2013)

アクアツーリズムの先進地 滋賀県針江地区

- 湧き水を利用した針江地区独特の生活環境
- 1年間1万人の人が訪れる
- 地域には1000万円の収入がある



地元の生活を守るため

針江地区が実施した政策

①観光客に規制をかける

→カバタの見学ツアーとして1日2.3回1人1000円からのツアーを行っている。

→ローカルルールを理解した観光客のみ受け入れている

②地元の生活が最優先

→観光はあくまで地域発展の手段のひとつ

地元の生活を最優先にして、いつでも観光をやめる決意を持っている



「お金儲けではなく、住民生活を保全する手段として観光に取り組む必要性」



2.研究目的

- 伊根浦でのアクアツーリズムを事例としてマスツーリズムとは異なる持続可能な観光のあり方を明らかにする。
- 従来の大衆的な観光のあり方から、次の時代に向けた持続的な観光のあり方へのパラダイムシフトを提案したい。



<概要>

場所：京都府北東部

人口：2117人

（平成30年度）

<舟屋>

伊根浦の沿岸部に立ち並ぶ
漁師の住居

1階：船着場・物置

2階：居住空間



3.伊根浦について

古くから日本有数の漁村

近年メディアで“舟屋”が取り上げられ、
年間30万人もの観光客が訪れる町

- 舟屋の並ぶこの地域一帯を伊根浦と呼ぶ
- 350軒の家屋のうち約230軒が舟屋
- 漁村として初めて

重要伝統的建造物群保存地区

に指定された（2005年）



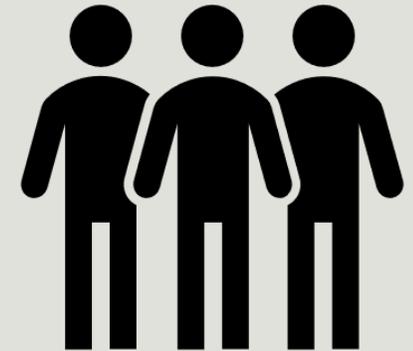
伊根町は・・・

舟屋の町



行政・観光客

漁業の町



地域住民

価値観の相違

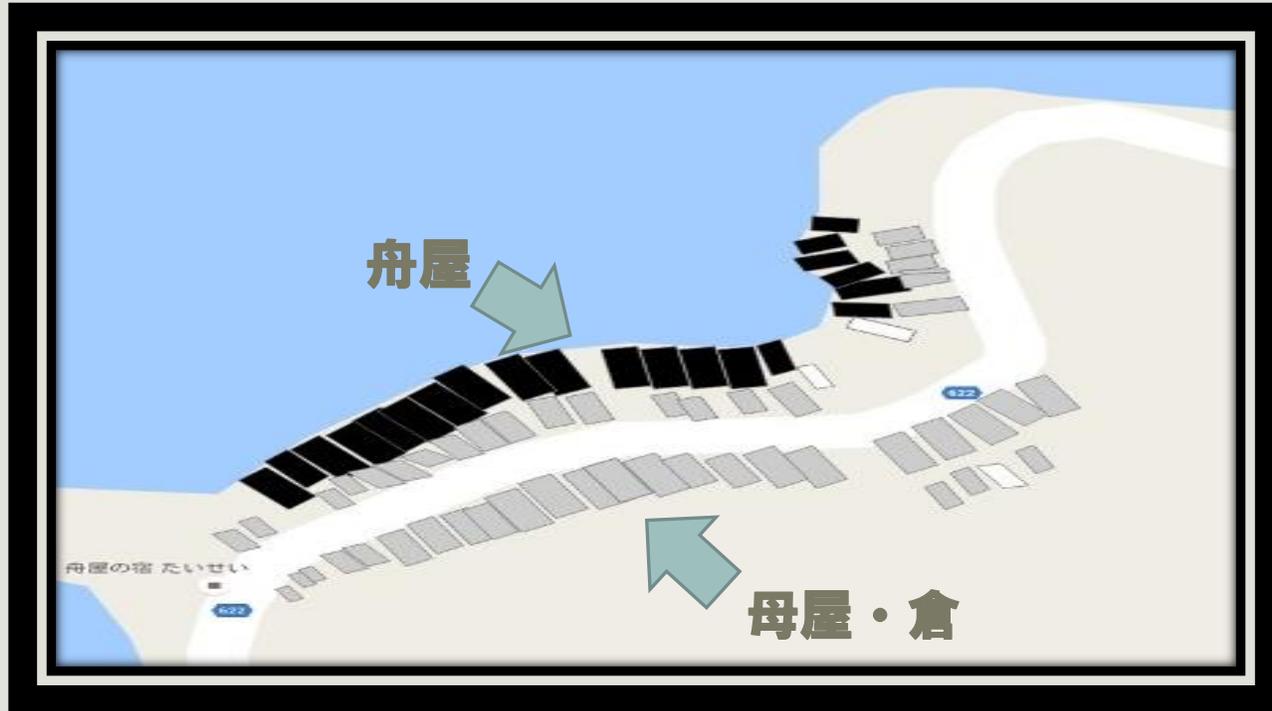


←舟屋の中の様子



舟屋は漁業のために必要と
され発展してきた
→伊根町は本当は漁業の町

コミュニティの繋がりが強い



住居は舟屋と道路を挟んで建てられており住民は何度も行き来する。
→必然的に住民同士が顔を合わせる機会が多い。



伊根町が抱える課題

① マスツーリズムによる弊害

観光客のマナーの悪さ
食事施設の負担・宿泊施設の不足

② 舟屋が活用されず景観に悪影響を及ぼすこと



4. ホテル建設案

ホテル建設計画

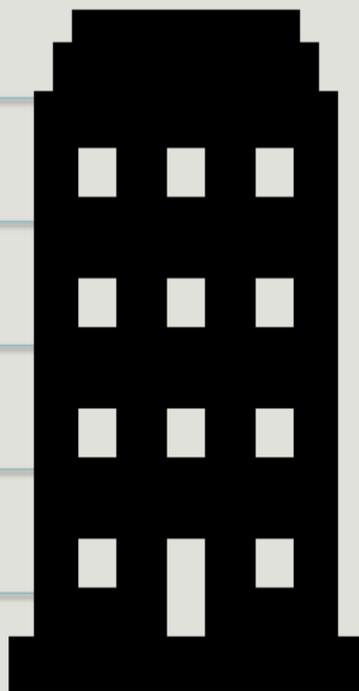
事業者: 積水ハウス(大阪市)

構造: 2階建て

部屋数: 50室程度

宿泊料金: 1万2千円/1泊

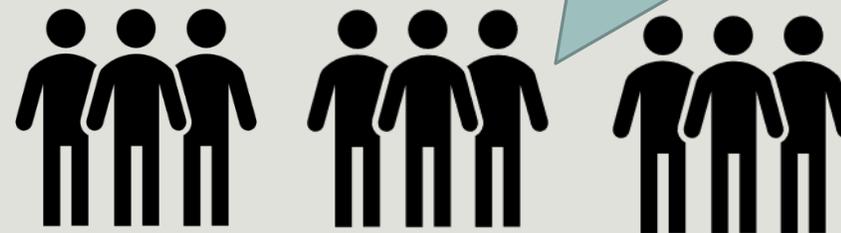
食事の提供: 無し



町商工会議所
町観光協会
伊根浦舟屋群等保存会による

反対!

地域住民の総意



「地元住民はなぜ反対したのか??」

ホテル建設のデメリット (町の住民へのインタビューを元に)

伊根浦全体
で利益を享
受出来ない

食事が提供
されない

比較的安価な
価格設定によ
る質の悪い観
光客の増加の
可能性

マスツーリズム
を促進させてしま
う

代替案

舟屋の高級民宿による伊根浦全体のホテル化計画

- 伊根浦の使われていない舟屋を高級民宿として活用する
 - 強いコミュニティを利用して、食事提供など得意分野で役割分担し助け合いながら民宿を経営する
 - 伊根浦舟屋群等保存会による運営
- 伊根浦全体を1つの大きなホテルとする計画

民宿を増やすメリット

宿泊費を高価格に設定することで質の高い観光客を呼び込む

宿泊客の料理担当などの役割分担をすることで住民全体が観光の恩恵を受けられることができる

舟屋のオーナーは宿泊客にマナーを徹底させ責任を持つ

舟屋を活用することで維持ができる

→ 持続可能な地域発展としての対案



伊根浦の観光

伊根浦の課題

① マスツーリズムによる弊害

- ・ 観光客のマナーの悪さ
- ・ 食事施設の負担
- ・ 宿泊施設の不足

伊根浦全体
ホテル化計画

① マスツーリズムによる弊害を解消

(オーナーが責任を持つ、役割分担で地域全体利益を分配、個性ある宿泊施設により魅力増加)

② 舟屋が活用されず景観に影響を及ぼすこと

② 舟屋を活用することで景観の維持

地域課題解決の
手段としての
“観光”

伊根浦ならではの観光

“漁業のまち”である伊根浦を将来的に取り戻すための

“温存措置”

として観光を活用

5. 結論:伊根浦での持続可能な観光とは？

地域課題解決型観光

地域の課題解決の手段としての“観光”

観光のパラダイムシフト

近代的な観光

地元の生活を利用した観光により地元は疲弊

観光

パラダイムシフト
(劇的な社会的価値転換)

ポストモダンの観光

将来の地元の発展を見据えた生活維持のために観光を
“飼い慣らす”

観光

参考文献

- ・ 大橋昭一・遠藤英樹他『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版（2014）
- ・ 鳥越皓之『環境社会学の理論と実践__生活環境主義の立場から』 有斐閣（1997）
- ・ 野田岳仁「観光まちづくりのもたらす地域葛藤 — 「観光地ではない」と主張する滋賀県高島市針江集落の実践から—」村落社会研究ジャーナル 20（1）：11-22（2013）

ご静聴ありがとうございました

